

# 工業高校とつどいできるじやいは

岐阜工業高校は、笠松町で唯一の高校であると同時に、岐阜県での工業教育の中心校でもあります。工業教育の基本理念は「ものづくり」を通して社会に有為な人材を育成することであり、地元笠松町とも連携しながら、多くの体験活動をしてきました。

笠松町では一人暮らしの高齢者を支援するための福祉協議会が設立され、昭和六十一年本校もその協力校の指定を受け、「地域ボランティア活動」および本校が最も得意としている「テクノボランティア活動」で、その

一翼を担っています。

本校は通学範囲が広く、地域との結びつくものが少ないため、「地域ボランティア活動」を企画して、地域との結びつきのきっかけにしました。笠松に通い、笠松で学ぶことから地域奉仕の心を育むことを目的とし、全クラスを対象に事前学習として本校周辺の地図の熟知から始め、ゴミの基本的な分別回収の方法や社会的なルールを学び、清掃

## かさまつの子

笠松町道德教育連絡会議

活動を行いました。この清掃活動の中から生徒は地域のかたがたと挨拶などをとおして自然に触れあうと同時に、ゴミの多さやその種類の多さに驚きながら、社会ルールや規範意識を学ぶ機



▲リバーサイドカーニバルにて消しゴムづくり

▲校舎周辺のボランティア清掃

会となつています。また、笠松町主催のリバーサイドカーニバルでは学校で製作した模型蒸気機関車を出展・運行し、ちびっ子とのふれあいを持ちながら、



[ボイス案内器]

慈しむ心の育成にもつながっていると 생각합니다。

併行して、技術的な支援として「テクノボランティア活動」と銘打った活動も行い、下駄箱の製作や、自分で声が出せない人や目の不自由なかたへの支援装置としてボイス案内器、ちびっ子用安全遊具などを製作して地域イベントに本校の生徒を参加させ、言葉遣いや礼儀作法などを自然に習得しています。

本校は今後も地域に根ざして貢献できる学校を目指し、活動していきたいと思っています。

校長 二反田 富郎

教育委員会  
だより

## 脳を活性化する読書のすばらしさ 〜読書と子育て〜

秋が深まりました。この時期になると「本を読みましよう。」と、読書キャンペーンが書店で開かれます。読書は、どうしてよいのでしょうか。あらためて考えてみましょう。

まず、脳の発達からみてみます。東北大学教授の川島隆太氏や日本大学教授の森昭雄氏の研究では、次のように述べられています。  
・思考、コミュニケーション、記憶や集中力などをつかさどる前頭前野という脳の部分は○歳から三歳までと、十三歳頃からの思春期に大きく成長する。  
・前頭前野は、読み・書き・計算によって活性化される。

また、読書も大変効果的である。(ちなみに、テレビやテレビゲームは、逆に不活性化する。)  
次に、読書の習慣を身に付けると、教養が身に付いたり、自分の視野が広まったりします。インターネットなどの情報も有効ですが、

やはり、手軽に手にすることができるとは本です。

最後に、読書を通して親子の会話が生まれるというよさもあります。「ハリーポッターの新作が出たね。お母さんも読むから買ってくるね。」「怪傑ゾロリは、おもしろかったね。」などと、本と一緒に買ったたり、読んだりすることで親子のふれあいが生まれます。親子のコミュニケーションは、初めにふれた脳の発達にも大変良いこともつけ加えておきます。

ところで、「どうしたら本好きになるのですか。」「こんな声が聞こえてきそうです。  
簡単な方法は、まず、親も本を読むことです。すると、自然に「本」が家庭の話題になってきます。子どもも、本に興味が出てくるのではないのでしょうか。読書の秋です。親子で本に親しみましよう。